

## 『哲学の探求』第45号刊行にあたって

一足早い夏の日差しが紫陽花を照りつけるこの季節に、今年も『哲学の探求』をお届けすることができました。本号は、2017年7月15日～16日に開催された「哲学若手研究者フォーラム」（以下「若手フォーラム」）でのテーマレクチャー、個人発表に基づいた論文集です。

2017年度の若手フォーラムでは、28本の個人発表、3つのワークショップ、そして「分析哲学史」をテーマに野本和幸先生（東京都立大学名誉教授・創価大学名誉教授）、高村夏輝先生（松蔭大学）をお招きしてテーマレクチャーが行われ、両日ともに100人を超える参加者により活発な議論が交わされました。懇親会の際には、今回レクチャー者としてご登壇・ご寄稿いただいた高村先生が、院生時代に運営委員（当時の呼称でいえば「世話人」）をなさっていたときのエピソードを紹介してくださいました。専門分野や所属を問わず、哲学を志す多くの若い研究者が切磋琢磨し、時にかなりカジュアルな形で交流する若手フォーラムの伝統が今も昔も変わっておらず、また世話人や参加者として関わっておられた方がレクチャー者として再びこのフォーラムに戻ってきてくださるといのは、同じく若手フォーラムに関わる者として心から嬉しく、またとても励みになることでもあります。

近頃では、修士課程に在籍する院生に発表を許可する専門学会も増えつつあり、若手フォーラムの担う役割は変容しつつあるのかもしれませんが。しかしながら、より高い研究水準を目指す自由闊達な議論と開かれた交流の場という若手フォーラムの理念は、参加者の方々一人一人に支えられて生き続けています。昨今の人文学をめぐる危機的状況、加えて若手研究者の置かれた窮状は未だ予断を許しませんが、今後も若手フォーラム、『哲学の探求』を通じて多くの方に豊かな実りのあることを、運営委員一同、心より願っています。

2017年度哲学若手研究者フォーラム運営委員・総務担当 辻 麻衣子